

くりこま
栗駒国定公園

指定年月日

昭和43年7月22日

公園面積

77,122ha（うち岩手県分14,575ha）

関係市町村

一関市／胆沢郡胆沢町／金ヶ崎町／北上市／和賀郡湯田町

1. 概要

栗駒国定公園は、岩手、宮城、秋田、山形の4県にまたがる南北約65km、東西47kmにわたる77,122haの国定公園です。

この公園は、奥羽山脈の焼石岳（標高1,548m）を中心とする一帯と、栗駒山、神室山を中心とするその山麓及び鬼首カルデラ（火口）を含む一帯の2団地が設定されています。

2. 特色

栗駒山（標高1,627m）は岩手、秋田、宮城の3県にまたがる複式コニーデ火山（円錐火山）で、岩手山や烏海山と同型の火山ですが、その周辺には寄生火山的な小さな噴火中心を伴っており、山体は浸食を受けているため火山地形は明瞭ではありません。

中央火口岳である剣岳（標高1,200m）は、須川温泉の南方1.5km付近にあり、ここから須川温泉にかけては、かつての溶岩流の跡で、今は美しい自然の庭となっています。

剣岳は、そばで見れば分かるように、かなり粘り気の強い溶岩がせり上がって来たものでトロイデ型（釣鐘状火山）を呈しています。

栗駒山は、一般の火山と異なって高山帯に入る前の針葉樹林帯（アオモリトドマツ、コマツガ）がないため、高山帯が下まで降りて来ている特色があります。

須川温泉は、標高1,100mであるのに高山帯の様相をなし、各種の高山植物が見られます。このようなことは東北の山では見られないことです。

一方、焼石連峰（標高1,300～1,548m）も栗駒山と同様針葉樹林帯がなくブナ帯－ダケカンバ帯－ハイマツ帯と移行しているため展望が極めて広いこと、高山植物が見事である点では栗駒山と同様でハクサンイチゲ、ヤケイシセンブリ等、本県ではこの山だけという高山植物も豊富にあります。

夏油温泉は、焼石岳～駒ヶ岳連峰の北側、夏油川によって深く刻まれた美しい溪谷に位置し、温泉は夏油川畔のいたる所に湧出しています。

泉質が石膏や塩分を含んだ硫化水素泉であるため、湧出口付近には石灰華が沈着し、その最大のもは高さ20m下部径25mという規模のドームができており、この種のドームとしては日本最大となっています。